7 権兵衛峠の植物

（1）はじめに

権兵衛峠　　植―６７

権兵衛峠は登山口から頂上までと、更に北へ進んで展望台周辺まで南箕輪村の地籍である。

歴史的にみると、今から３００年余前の元禄９年に伊那と木曽路を結ぶ重要な交通路として開通した。当時は馬に背負わせ米や漆器等の物資の交流を盛んに行った。現在では権兵衛トンネルが開通したがこの歴史ある「米の道」街道に親しみをもち、小学生が遠足をしていた。また「信濃路自然歩道」の指定でもあり、毎年伝統行事として２～３百人が参加し集団登山を実施している。登山口が 900m で頂上が１.520m であるから動植物の種類が豊富で、魅力ある植物も多く見られる。この地は歴史的にも、植物学的にも価値のある場所と考え調査する。

（2）調査期日　平成 20 年５月、８月～10 月

（3）調査概要

① 権兵衛峠の登山口から頂上まで植物を順路に沿って観察し、注目すき植物を記載する。

② 頂上より南にある自然保護林の植物（亜高山帯の植物を中心に記載する）

③ 頂上北から展望台にある注目すべき植物について観察し、結果を記載する。

（4）調査結果

① 権兵衛峠の登山口から峠の頂上までの植物。

キイチゴ（バラ科）　植―６８

ア　小沢川上流の、権兵衛トンネルへ向かう大橋の下が登山口になっている。この一帯はアキグミ（川原グミ）が多く自生していたが、現在はカツラ・サワラ・ヒノキなどの高木やキイチゴ・エビガライチゴなどの蔓性の植物がみらる。

少し進むと「七曲」(ななまがり)に至る。ここは上伊那農業高校の演習林であるが急傾斜の曲がりくねった道で、その両サイドには早春に黄色花の咲くダンコウバイやキブシがあり、葉の白斑が目立ち実が食用や薬用になる蔓性のマタタビもある。またぶどう酒が造れるマツブサ（ゴミシ）やヤマブドウなどが、高木や灌木に這い上がっている。

樹下にはヒトリシズカ・ヤマホトトギス・スミレ類などの草本も見られる。

マタタビ（マタタビ科）植―６９

ヤマブドウ　植―７０

マツブサ（ゴミシ）植―７１

8月の上旬頃熟すマタタビの実は、マタタビアブラムシの産卵したもので、凹凸のある実は強壮・冷え性・神経痛などに効がある。旅人がこの実を食べてまた旅を続けたことからこの名がついたという俗説もある。また猫はマタタビに接すると陶酔した状態になる。

七曲り茶屋の跡　昭和10年頃までは峠を行き交う人々の憩いの場となっていた。今はこの往時を物語る由緒ある場所を記念して看板が立てられている。この茶屋の主は「木曾づけ」と呼ばれた馬による運送業を営んでいたが、茶屋の仕事と炭焼きや野菜作りもしていたようである。明治44年の国鉄中央線全通により賑わいは失われている。

イ「七曲」を過ぎると平らな道になる。実は食べられるしワインも造れるサルナシ（別名シラクチ・コッカ）やアケビなどが見られる。往時の人もこの味覚を楽しんだであろう。

植―７２

サルナシ（マタタビ科）

アケビ（アケビ科）　植―７３

薬草で一時ブームになったメグスリノキがあり、このほかにカエデ科のハウチワカエデ・ヒナウチワカエデ・コハウチワカエデ・ウリハダカエデなどが出てくる。

植―７４

ミツデカエデ（カエデ科）

植―７５

権兵衛鍬の跡

ウ　更に進んで小さな沢を渡ると、ミツデカエデ（カエデ科）の木の根が大きな岩を抱えて立っている。その岩の前に「権兵衛鍬の跡」の立て札がある。

木曾の権兵衛と伊那の七一が力比べをした鍬の跡である。今はコケが覆っていてその跡ははっきり見えない。しかし粘板岩への両者の鍬の切り口は鋭いものである。伝説ではあるが、興味をもてる。

植―７６

トチノキ（トチノキ科）

エ　細い山道を少し行くと、トチノキの大木が処々にありトチノキの実も散乱している。食糧不足で飢餓のとき、トチの実は貴重で救荒植物の働きをしたという。材はち密で美しく、家具・ろくろ細工などに使われ、昔「木地師」にとってトチノキは生計を立てる貴重な材であった。実はトチ餅を作ったり、粉末にし、胃病・腫れ物・馬の眼病に用いたという。

標高１．２００ｍぐらいから、コナラに代わってミズナラの高木が自生している。これらの木の実は野生動物にとって大切な食糧となる。右の斜面にはオオバアサガラやウリハダカエデなどの長く垂れ下がった異様な花穂が見られる。

オ　少し進むと、南沢から登ってきて一緒になる場所がある。この辺には魅力あるハナイカダや、香水や楊枝を作るジシャの仲間のクロモジが見られる。緑色をした木肌に黒い点々があり、黒い文字を書いたように見えることからクロモジと名付けられている。

植―７７

ハナイカダ（ミズキ科）

植―７８

クロモジ（クスノキ科）

植―７９

ハウチワカエデ（カエデ科）

カ、坂道を登ると、「合の沢」に至る。

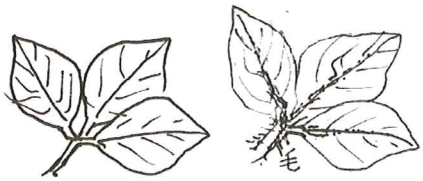
早春に葉に先駆けて花咲くミツバツツジやトウゴクミツバツツジが見られる。トウゴクミツバツジは西山に多く見られ、ミツバツツジは東山に多く見られる。

両者の違いは

A ミツバツツジは、　・花や葉に毛がない　・オシベが５本

B トウゴクミツバツツジは　・葉や花に毛が多い　・オシベが１０本

植―８０



トウゴクミツバツツジ（ツツジ科）

また、葉がササの葉のように細長く、ピンク色をしたササの女王といわれる美しいササユリが沿道にあった。この峠を越えるとき、この花を見ると疲れを忘れさせてたものである。往時の人も同様であったことと思う。しかし、平成４年頃から見られなくなった。心ない人たちによって乱獲されてしまった訳で、何とも残念なことである。

ササユリは花が咲くまでに6~7年もかかる貴重な植物である。　球根まで取ってしまうと絶滅となる。

②　峠頂上の自然と石碑

ここからは、南アルプス、中央アルプス連峰、八ヶ岳連峰などが展望できる。

分水嶺で、片や日本海へ片や太平洋側へと水は流れていく。新しい峠道の開削に尽力した「古畑権兵衛碑」があり、井月の碑も建てられている。なかでも、「雪災餓死等」があるが、この

権兵衛峠の頂上　　植―８１

峠を冬期に越える苦難が痛く偲ばれる。

③　**峠頂上の植物**

峠の頂上は、標高１.５２３ｍで亜高山地帯に当たる。峠の北斜面は高原に咲く植物が沢山見られる。亜高山性の植物も見られる。

ア　草本類

平地では減少しつつあるカワラナデシコ・オミナエシ･ワレモコウ・ツリガネニンジン（トトキ）･ヤマホタルブクロ（アメップリ）などがあり、高原特有のアヤメ、マツムシソウ、ヒヨドリバナ・ヨツバヒヨドリ・コオニユリ・ウツボグサの群落・トラノオ・ヤマニガナ・コバギボウシ・オオバギボウシ・ナルコユリなどの草花はこのの峠の植物を特徴づけるもので、昔の人も休憩のひと時、これ等の草花によって心を和ませたであろう。

植―８２
カワラナデシコ
（ナデシコ科）

植―８３
ヤマホタルブクロ
（キキョウ科）

植―８４
コオニユリ
（ユリ科）

植―８５

オカトラノオ
（サクラソウ科）

植―８６

アヤメ
（アヤメ科）

植―８７

ユウスゲ
（ユリ科）

植―８８

マツムシソウ
（マツムシソウ科）

イ　木本類

このあたりには、シラカンバとダケカンバが混生している。マタタビに変わってミヤママタタビ、コナラに変わってミズナラ、ツガに代わってコメツガ、モミに変わってウラジロモミというように低山

植―８９

オオヤマザクラ
（バラ科）

植―９０

ミヤママタタビ
（マタタビ科）

植―９１

アキグミ
（グミ科）

帯とは変った植物相を呈してくる。

また植樹したものであろうか、オオヤマザクラが何本も見られる。　少し小型の花のヤマザクラもある。伊那地方で俗に言っているヤマザクラは花や葉に毛があり、花の色が白っぽいものでカスミザクラ（別名　ケヤマザクラ）である。オオヤマザクラやヤマザクラには花や葉に毛がないので区別がつく。

分布的にみると、オオヤマザクラは北国に多く、ヤマザクラは木曾より南に多く分布する。このほかに、実を食べるアキグミやズミ（コリンゴ）やアオダモもみられる。ヤマナシの木もあるが植えたものであろうか。自生種であるか不明である。

④　峠頂上の南側の植物

南側は小高い山であるが、カラマツを植樹してない自然環境を感じさせる森林がある。

ここには、胸高直径５０センチ程の巨樹イヌブナ（ブナ科）がある。他にも何本もある。

ブナの木は 北方に多く、イヌブナは南の太平洋側に多く分布している。両者の違いは、次のようである。

峠南側の森林　植―９２

A ブナ　　葉脈が　　７～１１、葉は卵形～ひし形、裏は後無毛、　樹皮は灰白色

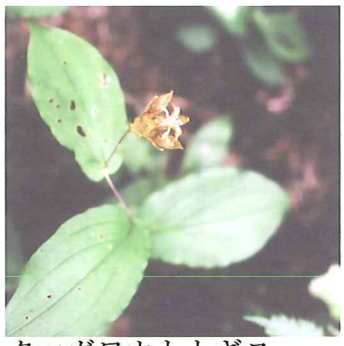
B イヌブナ　葉脈は　１０～１４、葉はブナより細長、裏は長毛あり、樹皮暗灰褐色

実は食べられるから動物にとっても大切な存在である。涵養林として有用な樹木である。

この他に、胸高目通り５０cm（マツ科）・ウラジロモミ（マツ科）・胸高目通り５０cmのシラビソ（マツ科）・胸高直径５０ｃｍのミズナラ・目通り５０cmのコメツガな針葉樹が林立している。広葉樹では果が４裂するヒロハツリバナ（ニシキギ科）・葉の先の尖る特徴のあるミヤマガマズミ（スイカズラ科）・目通り20ｃｍのアオダモ（モクセイ科）・アオハダ（モクセイ科）・カエデ類ではオオモミジ・ハウチワカエデ・コハウチワカエデ・コミネカエデ・直径25cm程のイタヤカエデ・ウリカエデなどがあり、また、オオカメノキ別名ムシカリ（スイカズラ科）・コヨウラクツツジ（ツツジ科）・リョウブ・ミヤマガマズミ等の灌木が混生している。

ミヤマガマズミ
（スイカズラ科）　植―９３

ヒロハツリバナ
（ニシキギ科）植―９４



タマガワホトトギス
（ユリ科）　植―９５

樹下には、亜高山性の植物のツバメオモト（ユリ科）・マイズルソウ（ユリ科）・ソバナ（キキョウ科）などが見られる。

水枡の遺跡　１ｍ幅の木製の枡がある。これは木曾側の白川より用水を引いてきて、伊那側の北沢川へ水を落とし伊那の灌漑用水としたが、ここに水枡があって一定量以上伊那側へ余分に流れないようにしたという遺跡がある。（現在は南沢の川に水を落としている。）

少し南に、清水の湧き出ているところがあり、ミズナの群落・ズダヤクシュ・ツリフネソウ・ヒメイチゲ（キンポウゲ科）・コウモリソウ（キク科）・タニソバ（タデ科）・チャルメルソウ（ユキノシタ科）ガある。珍しく黄色い花で茎葉は無毛で特徴のあるタマガワホトトギス（ユリ科）が自生している。水場であるためかイノシシの踏み荒らした足跡が見られた。またクマの糞もあり、ここ一帯は彼らの餌場の一つであると思う。

またこの南端に目通り 40ｃｍの太いトチノキの巨木がありトチの実が落下していた。その他に、目通り５０cm のカツラ（カツラ科）・目通り４０ｃｍのミズメ（カバノキ科）などの巨樹があり、樹木に絡みついたイワガラミ（ユキノシタ科）やヤマブドウ（ぶどう科）が見られる。

山地には頂上まで遊歩道があり、自然観察ができるようになっている。

⑤　峠より北の駐車場付近の植物

かっては、ヤナギランやマツムシソウなどが自生していたが、今は一部土捨て場で、また塵も捨てられ、少し荒れた状態であった

周辺には、オオイタドリの大群落が見られる。このオオイタドリは平地にあるイタドリより葉が大型で、草丈も大きい。裏日本系の植物であるのでここに在るべき物ではない。多分、土留め用に用いたものが広まったものと思う。

イタドリ

オオイタドリ（太平洋側型）

このほかに、周辺には黄色花のトモエソウ、またタケニグサ・ヨツバヒヨドリソウ・帰化植物のヒメジョオン群落がある。

⑥　展望台周辺の植物

展望台は南箕輪村地籍である。峠より北東へ車で１ｋｍ進んだ所にある。
また、西箕輪の羽広壮、経ヶ岳植物園から旧３６１号線を４５分ほど車で上がっていくと展望台に着く。ここからは、南アルプス連峰が一望でき、八ヶ岳・霧が峰・伊那山系・伊那谷の風景が眺望できる。案内板もあり、一息つくに好都合の場所である。

南側の眼下は北沢川の源流である。ミズナラの巨樹やバッコヤナギの大木が１０数本、リョウブなどが展望台を縁どっている。

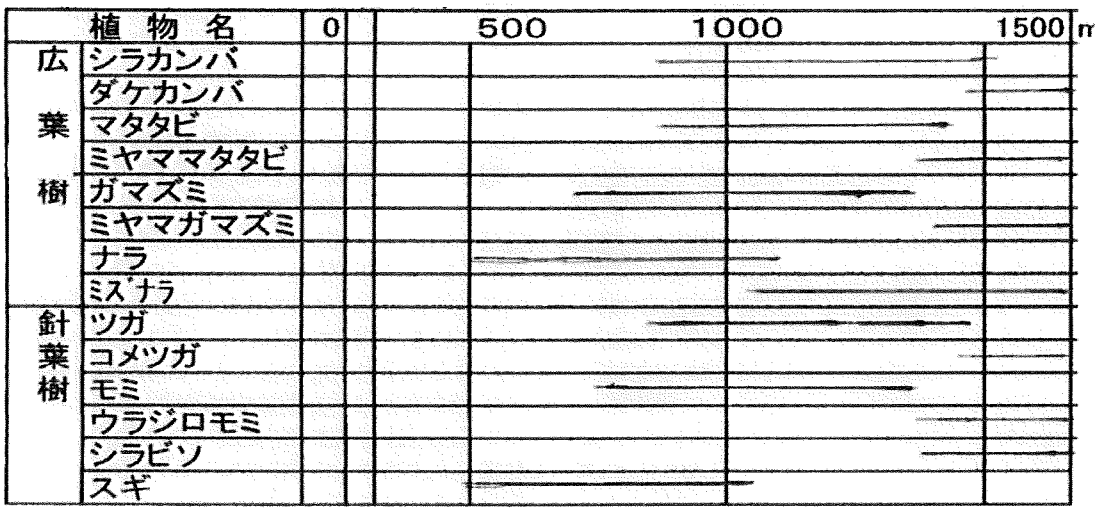
これより北側は一段高い展望台がある。この周辺には貴重なヤナギランの群落、シロバナヘビイチゴ(食)、ミヤマタニソバ、ヤマホタルブクロ、オカトラノオ、イケマ、ヨツバヒヨドリ、コウゾリナ、チゴユリ、ミヤマガマズミ、ナルコユリ、ネジバナ、シモツケ、ヤ

ヤナギラン　植―96
（アカバナ科）

ヤマナラシの葉柄　植―９７
葉の柄が扁平で揺れやすい

マハギ、コリンゴ、ニガイチゴ、よい香のするクロモジ、マユミ、カラマツ、アカマツ、ミズナラなどの樹林の中にヤマナラシの木が目だって生えている。葉柄が縦に扁平の形にならているためにそよ風でも葉が揺れて音を出す。それで「山鳴らし」の名がついている。

植－98　権兵衛峠の植物の垂直分布



⑦　考　察

ア　登山口から頂上までの権兵衛街道（米の道）の周辺は、カラマツの植樹がすくないので多種類の広葉樹や野草が生育していて貴重な場所である。街道としての風格も感じる。

イ　峠の頂上周辺には、平地では減少し、または絶滅した野草も現在も生育しているのを見ることができる。今後もこうした植物の望ましい環境を保護していく必要を感じる。

8　植物調査全体考察

ア　短期間の実地調査であるので焦点的に絞って調査をした。経ケ岳、黒沢山調査では、貴重な植物、例えば野生サクラソウやササユリなどは希少植物でごく小範囲ではあるが今回、存在を確認することができた。またクリンソウも存在を確認できた。残念ながら、貴重な野草を盗掘した跡も見られた。また、断層帯の土砂の崩落により野草の消滅の姿も見られた。

イ　自然環境の指標でもあるバイカモを今回確認できた。バイカモの生育しているところにはサワガニ、カワニナ、トビケラなどが生息していて、ゲンジボタルの発生も見られる。クロモの生育はバイカモとの対比で水環境を考えることができる。

ウ　帰化植物については、以前は少数であったものが急激に増殖しているものもあり、喘息病や農作物に悪影響を及ぼす害草等も調査した。今後、駆除の仕事が必要になる。

エ　権兵衛峠の植物は、多くの人が登山する大事なところであるので登山順路に沿って観察できる植物について解説した。平地には無くなった野草もここでは多く見られた。

オ　大芝原の植物は４地区の特性を調査し、望ましい山林の姿を探った。適度に日光が入り、いろいろの植物が生育できる山林作りが必要である。